

## 世界都市と外国人労働者——大阪のコリアン労働者の場合

### 1 節 課題の設定

#### 世界都市化

経済のグローバル化は、労働力の国際移動を加速させた<sup>1)</sup>。それは、世界単一の労働市場を形成し、「先進国」と発展途上国双方の都市階層の新たな二極分化、すなわち新中間層と新労務層<sup>2)</sup>を出現させた。サッセンは、ニューヨークとロサンゼルスを事例に、資本と労働力の国際移動について論じ、次のような命題を導き出した。一つ、途上国への資本移転は、「先進国」への海外移民を抑制するどころかそれを促進する [Sassen, 1988=1992:48]、二つ、途上国からの移民は、資本を送出する当の国に向かって逆流する [Sassen, 1988=1992:49-50]、三つ、途上国からの移民は、「先進国」経済のサービス化によって生じた下層職種に参入する [Sassen, 1988=1992:72]、四つ、労働力の国際移動の方向と規模は、移民の送出国と受入国双方の政治権力に規制される [Sassen, 1996=1999:147]。

経済のグローバル化は、「先進国」と途上国を貫き、世界都市を頂点とする都市序列の再編を促した。ここで世界都市とは、国境を越えた資本と労働力の移動において、主導的な位置（中心性）と機能（媒介性）を担う結節空間をなすような都市をいう。フリードマン [Friedmann, 1986a=1997]をはじめ一連の世界都市（化）仮説は、次のような命題を導き出した。一つ、世界都市化は都市の形成自体をグローバル化した。二つ、世界都市化は都市労働市場に、経営管理の中枢を担う新中間層と苦汗労働を担う新労務／新貧困層を生み出した<sup>3)</sup>。三つ、この苦汗労働部分に、途上国からの出稼ぎ者が参入した。四つ、世界都市化は、都市の歴史的・構造的な諸条件を介して進行した [町村, 1994:32-34] [Hill & Fujita, 2003]<sup>4)</sup>。五つ、世界都市は、都市が世界経済に参入して世界都市になる<世界都市化>の過程でもある。諸都市は参入の度合に応じてたがいに序列化される<sup>5)</sup>。

#### 本稿の目的

本稿はこれらの知見を念頭に、大阪<sup>6)</sup>の外国人労働者像について記述する。もって、経済のグローバル化・世界都市（化）仮説の一部を検証する。具体的に、大阪の在日・新来コリアン<sup>7)</sup>を対象を絞り、入手できた情報に限り、また2000年頃までの状況に限り<sup>8)</sup>、その人口動態、空間分布、就労状態について記述し、そこに大阪の世界都市化の徴表を読みとる。その際、コリアンの対照的な就労・居住空間である釜ヶ崎・猪飼野・ミナミに、記述の場を設定する。記述に用いるデータは、数年にまたがる聞き取り・参与観察と、行政・団体資料、先行文献・論文、ウェブサイト情報などの二次資料から成る。

### 2 節 大阪の外国人

## 大阪の世界都市化

フリードマンは、空間的な分節と階層に編成された 30 の世界都市のリストの内、「国家内／地域的分節」に位置する都市の一つに「大阪・神戸（関西地区）」を挙げ、その国際的な管理機能の中核都市への発展可能性を指摘した[Friedmann,1986b=1997:25,40]。じっさい大阪は、「管理中核機能は対東京の関係では低下しつつあるものの、近畿圏の中でのウエイトは高まって」[大阪市経済局,2000:7]おり、外に向けた世界都市化の度を進めてきた。大阪の人口は、1999 年に 259 万 3501 人で、それは 91 年の 0.8 パーセント減であった[大阪市計画調整局, 2000a:17]。人口の微減傾向は、東京と同じである。他方、就労人口は 1996 年に 272 万 8539 人で、それは 81 年の 10.3 パーセント増であった[大阪市計画調整局,1999:436]。ここに、人口の郊外化を窺うことができる。大阪も、経済のサービス化がいちじるしい。第二次産業の就労人口は、1981 年に全就労人口の 28.1 パーセントであったが、96 年には 23.9 パーセントであった[大阪市計画調整局,1999a:436]。第三次産業の就労人口は、1981 年に 71.8 パーセントであったが、96 年には 76.1 パーセントであった。

以下、本稿の目的に照らし、大阪の世界都市機能の一傍証として、行政資料から大阪と外国（人）の関わりを示す数字を掲げる。関西国際空港は 30 ヶ国の 66 都市と交通し、その輸出額は 1999 年に 2 兆 8300 億円余で、それは開港時（94 年）の 2.26 倍であった[大阪市経済局, 2000:100]。関西国際空港・大阪国際空港・大阪港から入国した外国人は 1999 年に 109 万人余で、それは関西国際空港がなかった 85 年の 155.0 パーセント増であった[大阪市計画調整局,2000b:79]。1997～98 年に渡日した外国人の 20.8 パーセントが、大阪を訪ねた。大阪で 1998 年に、224 の国際会議と 86 の国際見本市が開催された[大阪市経済局,2000:24-25]<sup>9)</sup>。大阪は、（東）アジアとの関係が緊密である。「近畿地域は、80 年代から 90 年代にかけて他のどの地域よりもアジアその他への直接投資に積極的であった。またアジアからの製品輸入の拡大もこの地域が先鞭をつけた」[大阪経済局,2000:9]。関西国際空港とアジアの航空便数は、東京国際空港を凌いでいる[大阪経済局,2000:24]。1999 年に関西国際空港・大阪国際空港・大阪港から入国した外国人の内、アジア人は 67.9 パーセントを占めた[大阪市計画調整局,2000b:79]。

## 大阪の外国人労働者

大阪（市）の外国人登録人口は、2000 年に 11 万 7919 人で、内コリアンが 82.2 パーセント、中国人が 10.9 パーセントであった[大阪市計画調整局,2000c:55]。登録人口は、1988～2000 年に 1.3 パーセント減少した[大阪市計画調整局,2001:20]。内、コリアンは 12.1 パーセント減少し、中国人は 89.9 パーセント増加した。中国人の増加率がいちじるしい。登録コリアンとは、大半は在日コリアンを指す。コリアン人口の減少は、在日コリアンが帰化したことや高齢で死亡したことによる。後に見るように、新来コリアンの方は増加している。自主入国（密入国）したが法務大臣の特別在留許可のないコリアンは、登録人口に含まれない。また、未登録（超過滞日）の新来コリアンもいる。この人びともコリアン人口に加わる。

大阪労働局は、厚生労働省職業安定局による全国の事業所調査の内、大阪管内の事業所について、直接・間接（派遣）雇用の新来外国人（合法就労の外国人）の就労実態を調査している<sup>10)</sup>。同調査によれば、2000年に大阪管内で外国人を雇用した事業所は1304で、雇用外国人は6742人であった。それは、1993年に比べそれぞれ42.5パーセント、4.9パーセントの増加であった。1事業所当りの外国人数は、7.0人から5.2人に減少した。すなわち、雇用外国人は、小規模の事業所へいっそう拡散した。外国人を雇用する事業所の業種は、製造業48.7パーセント、サービス業22.4パーセント、卸・小売・飲食業19.5パーセントなどであった。また、雇用外国人の就労先業種は、製造業42.0パーセント、サービス業38.7パーセント、卸・小売・飲食業12.6パーセントなどであった。外国人はおもに製造業とサービス業に就労している。次に、雇用外国人の内、間接雇用者は12.6パーセントであった。また直接雇用者の内、期間雇用（臨時、派遣など）の労働者は68.3パーセントであった。すなわち、直接・間接雇用で期間雇用の雇用者は、72.3パーセントに及んだ。外国人労働者の雇用は不安定である。直接雇用者について国籍をみると、東アジア42.2パーセント、東南アジア10.3パーセント、中南米16.2パーセント、欧米22.5パーセントなどであった。これを1993年と比べると、東アジア105.1パーセント増、東南アジア110.4パーセント増、中南米66.1パーセント減、欧米12.2パーセント増であった。外国人労働者のアジアへの傾斜がいちじるしい。労働者の在留資格では、特定在留資格保持者46.2パーセント、配偶者永住定住者34.4パーセント、留学生・就学生8.4パーセント、技能実習生8.2パーセントなどであった。職業構成では、専門・技術30.2パーセント、営業・事務8.5パーセント、販売・調理・給仕7.7パーセント、生産工程31.6パーセント、建設土木1.5パーセント、運輸・労務1.4パーセントなどであった。これをまとめると、事務・技術系38.7パーセント、労務系61.3パーセントとなる。以上の数字から、大阪の外国人労働者像が浮かび上がる。すなわち彼（女）らは、アジア出身者を中心に、一部事務・技術職を含み、全体に製造業・サービス業の小規模な事業所で期間雇用される人びとが中心をなす。これに（アジア出身者に多い）資格外就労者を加えると（その大阪の人口は不明である）、このような外国人労働者像はいっそう明瞭になる。ここに、外国人労働者が受入れ国都市の下位職種部分に参入するという、サッセンの命題が確認される<sup>11)</sup>。

### 3節 大阪のコリアン

#### 大阪とコリアン

大阪府のコリアン人口は1998年に16万2990人で、それは外国人登録人口の78.6パーセントを占めた[大阪労働協会,2000:166]。同年に、全国のコリアン人口は63万8828人で[総務庁統計局,2001a]、大阪府のコリアンはその25.5パーセントを占めた。次に、同年の大阪（市）のコリアン人口は9万6901人で、それは大阪府の59.5パーセントを占めた[大阪市計画調整局,2000a:20]。大阪府で、人口10万人当りのコリアン数は1995年に1693.8人で、それは東京都の640.5人、全国平均の446.3人をはるかに凌いでいる[総務庁統計局,

2001b)<sup>12)</sup>。

大阪と在日コリアンの間には、深い史的経緯がある。かつてコリアンは、大阪のアジア化の原動力であった。今、在日コリアンは大阪の世界都市化の基底をなしている。すなわち、後に見るように、在日コリアンは、新来コリアンの動向を決している。大阪のコリアンは、1920年代に増加し始め、35年に20万2311人、42年に41万2748人を数えた[杉原,1998:54]。大阪が工業都市（東洋のマンチェスター）であったこと、濟州島との定期航路があったことなどが、コリアンの大阪流入を促す条件となった<sup>13)</sup>。戦前のコリアンのおもな仕事は、土工、坑夫、職人（手元）、女工などであった<sup>14)</sup>。コリアンは、はじめ日本人の募集人によって、次に先に渡日した縁者を頼って、最後に強制連行によって渡日した。滞日が長引くにつれ、出稼ぎ型移民から家族の呼び寄せや挙家型移民に移行した。コリアンはほとんど、不熟練労働者で、低位な就労状態（不安定な雇用、劣悪な労働条件、低位な賃金）にあった。1945年の朝鮮解放後、多くのコリアンが帰国した。日本に残留したコリアンは、新たな生計の途を求めた。建設労働者や坑夫になる者、工場で働く者、物売りになる者、小事業を始める者。それから半世紀余、在日コリアンは階層分化し、事業主も雇用者もいる。一家のおもな稼ぎ手は、一世から二・三世へ交代してきた。

大阪府の在日コリアンの職業構成は、1990年に専門・技術 5.8 パーセント、経営・管理 5.1 パーセント、事務 13.3 パーセント、販売 18.2 パーセント、サービス 10.4 パーセント、運輸・通信 4.7 パーセント、技能・製造・建設、労務 40.9 パーセントであった [石川,1996:209]。同じく1998年に、専門・技術 7.3 パーセント、経営・管理 8.3 パーセント、事務 30.4 パーセント、販売 18.6 パーセント、サービス 4.9 パーセント、運輸・通信 4.6 パーセント、技能・製造・建設・労務 25.6 パーセントであった<sup>15)</sup>。データは、1990年は総務庁の国勢調査に、98年は法務省の外国人登録に依っているため、厳密な比較はできない。しかしそれでも、在日コリアンの職業的地位の分化と上昇の傾向を窺うことができる。とはいえ、次の点は留意されなければならない。すなわち、職業的地位がどうであれ、在日コリアンの多くは自営業や、同胞経営の小規模な事業体で働く人びとである。職業的な地位上昇とは、その範囲内での話である。金融機関の融資を受けにくい、公共事業の元請になれない、偏見や国籍条項のため雇用で差別されるなど、起業や就労の機会が制約されている。その分、在日コリアンの階層分化は制約される。1990年の大阪府の在日コリアンの業種は、製造業 34.9 パーセント、卸・小売・飲食業 26.0 パーセント、サービス業 13.5 パーセント、建設業 11.5 パーセント、運輸・通信業 4.8 パーセント、不動産業 4.0 パーセント、金融・保険業 3.5 パーセントであった[石川,1996:209]。それらの中身は、製造業は金属・ビニール・プラスチック製造などの経営と雇用が、卸・小売・飲食業は製品の卸・衣服や食品の小売・焼肉店の経営と雇用が、サービス業はレジャー施設などの経営と雇用が、建設業は工務店や飯場の経営と雇用が中心をなす。いずれも、在日ネットワーク内の経営と雇用である。不動産業や金融・保険業の場合も同様である。

## コリアンの集住地

大阪のコリアンは、生野区 3 万 5088 人、東成区 7755 人、西成区 6743 人、平野区 6175 人と、市東部に集住する<sup>16)</sup>。ちなみに在日中国人は、平野区 1251 人、中央区 1055 人、北区 960 人、淀川区 914 人で、市南部と中央以北に多い。1990 年の国勢調査からも、ほぼ同様の居住分布が描かれている[石川,1996:205]。在日コリアンの居住分布は、地域ごとの史的経緯や生業構造に規定される。杉原は、戦前のコリアンの地域分布を分析し、その集住史を詳細に跡づけた[杉原,1996:99-108]。それらの史的経緯が、今日の在日コリアンの地域分布の基底をなし、後に見るように、新来コリアンの居住をも決している。

1980 年に入り、これらの地域に新来コリアンが流入した。渡日の方法は次第に多様化した。渡日には、周旋人を介する場合と介さない場合がある。前者には、周旋人が韓国へ出向く場合、日本の周旋人が韓国の周旋人から労働者を引き取る場合がある。後者には、雇主が直接雇用する場合、コリアン労働者が各種のビザを携えて渡日し、直接雇用される場合がある。はじめは親族訪問のかたちで渡日するコリアンが多かった。次いで周旋人を介して、最後に滞日経験者とのついでで渡日するコリアンが増加した。渡日の資格も、労働ビザ、訪問ビザ、短期滞在ビザ、定住者ビザと多様である。しかし渡日の経緯はともかく、新来コリアンは直接・間接に在日コリアンに関わってきた。また、彼（女）らの流入は、在日コリアン社会に大きな変動を生じた。大阪の場合、とくにそうであった。

以下、在日・新来コリアンが対照的な関わりをなす 3 つの地域を選び、彼（女）らの就労と居住を中心に、各地域のコリアン像（の断片）を記述する。そしてそのコリアン像の変容のなかに、大阪の世界都市化の徴表を読みとる。3 つの地域とは、新来コリアン男性の就労の街・釜ヶ崎、在日コリアンの街・猪飼野、新来コリアン女性の就労の街・ミナミである<sup>17)</sup>。いずれの地名も、行政呼称ではなく通称である。

### 釜ヶ崎

釜ヶ崎は西成区の花園北、萩之茶屋、太子、天下茶屋北、山王の各町（の一部）を含む日雇労働者の街である。そこに寄せ場（西成労働センター）とドヤ（簡易宿泊所）190 軒があり、3 万人余の現役・元の日雇労働者（および野宿者）が住む。在日コリアンは戦後、釜ヶ崎に深く関わってきた。その人口を算出する術とてないが、今日も多く在日コリアンが親方、手配師・人夫出し、日雇労働者、さらに商店主として釜ヶ崎に関わっている。釜ヶ崎は、建設業を生業とする在日コリアン抜きに成立しない<sup>18)</sup>。

韓国の人たちはオールドカマーの人たちが手配師なんですよね。で、手配師であり、雇主であり、そこへニューカマーが入る。それとフィリピン人とかタイ人の人と日系の人とか入り方のルートがぜんぜん違いますよね。（釜ヶ崎の外国人支援団体 B さんの話） [加藤他,1997:20]

在日の人（手配師・人夫出し）には通名を名乗る人が多いので、実際の数は分かりません。でも、手配師・人夫出しのほとんどが在日だという話はよく聞きますね。（労働者 C さんの

話。1999年7月19日。括弧内は筆者の補足。以下同じ)

そもそも、建設日雇に就労する在日・新来の外国人労働者は少なくない。建設業の臨時・日雇人口は全国に60万人で、その内11万人余が外国人労働者といわれる〔駒井,1993:125-138〕。1980～90年代、東京の寄せ場（山谷、高田馬場、上野）や横浜の寄せ場（寿町）に、多くの新来外国人が現われた。これに対して釜ヶ崎では、雇用主や手配師・人夫出しが、外国人労働者を寄せ場を経ずに市内一円の飯場に囲い込む傾向にあった。また釜ヶ崎では、ドヤが大型化・ビジネスホテル化し、ドヤ代が高騰した。それは、外国人労働者にとって高すぎる。部屋もすべて個室（1間2～3畳）で、共同生活が必要な外国人労働者に馴染まない。こうして1990年代後半まで、釜ヶ崎に多くの外国人労働者が現われることはなかった。他方、釜ヶ崎の外では、在日コリアンの親方による外国人労働者、とくに新来コリアンの雇用が増加した。1990年代前半、景気後退とともに建設の日雇仕事が激減した。それとともに、外国人労働者に対する日本人労働者の反感が表面化した。差別的な言辞の表出や落書が頻発した。日本人の垂れ込みで、資格外就労のコリアン労働者が摘発されることも相次いだ。京都や尼崎で、コリアン労働者を囲い込む大型飯場が、次つぎと入国管理局の摘発を受けた。雇主や親方は、トラブルや摘発を恐れ、日本人労働者とコリアン労働者の仕事を分離し、また、コリアン労働者の飯場を分散するようになった。

昔は飯場や現場で韓国人を見ることが多かった。連中は韓国で在日に手配されて飯場に入って、そこからそのまま現場に通ういかたちやった。飯場でも現場でもハングルを話すんで、日本語が話せる人は少なかった。出歩くことも少のうて、固まって黙もく働くいう感じやった。日本人といっしょいうことはあまりなかった。（労働者Dさんの話。1999年7月18日21）

しかし1990年代半ば過ぎてより、周旋人の賃金ピンハネを嫌い、また、親方の労働管理を嫌って、コリアン労働者が、自前で仕事を得るために釜ヶ崎へ現われた。彼らは日本語は不自由でも、若くて労働意欲が旺盛である。稼ぎをきちんと母国の妻子に送る。容貌は日本人と似ていて、資格外就労がばれにくい。匿名社会・釜ヶ崎で日本人労働者に混じって、手配師・人夫出しから仕事を得る。それは、簡単で便利な現金獲得の方法である。とはいえ、不況が長引くなか、建設業が縮小し、日雇仕事が激減した。コリアン労働者は、賃金が安くとも仕事がある現場で我慢するか、地方の現場飯場<sup>19)</sup>へ入るか、帰国するかを選択をよぎなくされた。しかしそれでも、コリアン労働者には仕事を融通しあうエスニック・ネットワークがある。多くの日本人労働者が仕事にあぶれるなか、コリアン労働者は仕事を融通しあって苦境を凌いだ。その後も釜ヶ崎にコリアン労働者が増加し続けた。そして1990年代末、釜ヶ崎の一角に、彼らを顧客とする在日コリアン経営の飲み屋や食堂が現われた。街路には、コリアン商品を売る露店が並ぶようになった。建設仕事が減少するにともない、日雇から露天商に転業するコリアン労働者も現われた。その転職は、在日コリアンの助力によって可能となった。

仕事がないので、日雇いから露店商に移る韓国人が増加してます。露店が並ぶ光景はちょっとしたもんです。彼らの露店は、在日（コリアン）のグループが仕切る一等地を占めるので、日本人で露店をやる人から不満が出てます。商品は裏ビデオや酒、煙草なんかやね。みんな闇手配のブツ（物）やね。なかには韓国人の労働者相手に、韓国から直接取り寄せた新聞、雑誌、乾物なんか売ってる者もいます。今は偽ブランドものの鞆や財布が多いですね（前掲Bさんの話。1999年8月13日）<sup>20)</sup>

コリアン労働者は釜ヶ崎のドヤに住み、仲間のネットワークをもち、手配師・人夫出しを通さずに仕事を探し、融通しあい、建設現場や工場に直行する<sup>21)</sup>。彼らは携帯電話をもち、たえず連絡を取りあい、仕事や生活の情報を逐一交換しあう<sup>22)</sup>。そのため、釜ヶ崎で野宿になるほど孤立したコリアン労働者は現われていない。コリアン労働者のなかから世話焼きや、日本人と結婚して飯場の親方になる者も現われた<sup>23)</sup>。彼らは、閉じたネットワークのなかで仕事を融通しあうため、世話焼きや親方になる機会は、日本人労働者より多くなる。そして、コリアン労働者相手の小ビジネスへ転身する者、郷里から妻を呼び寄せる者、日本人と結婚する者など、釜ヶ崎の新来コリアンは、確実に定住化の途を歩んでいる。

釜（ヶ崎）に300人くらい（新来）韓国人がいるよ。釜山や済州島から来た者が多いよ。僕は縫製工場の経営を失敗して、軍人になったんだけど、それをクビになって、訴訟を起こしたんだけど埒があかないので、1990年に、船で神戸に渡ってきたよ。観光ビザと日本の金10万円もって、夜中に子どもの寝顔みてさよなら言って、妻が港まで送ってきて。神戸から釜へ直行したよ。というのは、前にも日本に来たことがあったから、釜のことは知っていたよ。はじめの2年は言葉も分からず、仕事も分からず、不法滞在の不安もあってきつかったよ。親方もきつかったけど、心が通じて、金払いはよかったよ。ラッキーだったよ。今は月に8万円、奥さんに仕送りしてるよ。仕事がないから、これは少ない方だよ。奥さんも韓国で働いて、アパート買って、息子は大学に入ったよ。僕は日本人としか仕事しないよ。韓国人だと利害が絡んで面倒だからね。釜でのつきあいはあるけど、ドヤは教えてないよ。いずれ韓国に帰るつもりだから。でも釜に住み込む韓国人が増加したなあ。親方になる人もいるし、結婚する人もいるよ。（コリアン労働者Eさんの話。1998年8月15日）<sup>24)</sup>

### 猪飼野

在日コリアンが集住する生野区は、サンダル・シューズ製造・ゴム製品・金属加工などの製造業の街である。そこには零細な事業所が多い。1988年に、5424の事業所があった。生野区のハッピーサンダル生産は、全国の過半のシェアを占めた[庄谷・中山 1992]。1996年に、生野区の就労人口の43.4パーセントが第二次産業に属した（全市平均は23.9パーセント）[大阪市計画調整局,1999a:450]。

事業所の従業員は平均5.9人と、事業所の規模は小さかった[大阪市計画調整局,1999b:27]。生野区に2000年12月、3万6329人の外国人登録があり、その96.6

パーセントがコリアンであった[生野区役所戸籍登録課,2001]。それは、大阪のコリアン人口の3分の1を超えた。生野区の外国人の純 入国者数（入国者数－出国者数）は、同年に314人であった。その数は毎年増加している[大阪市市民局,1994-2000]。それは、新来外国人の増加分を示す。生野区のコリアンは2000年3月に3万5607人で、永住許可・特別永住許可（前者は一代限りの、後者は子孫を含めた永住許可）を受けたコリアンが3万2792人であった。その差2815人が、ほぼ新来コリアンに当たる。生野区で新来者がもっとも増加したのは1985年で、その年に4000人程の新規登録者があった（生野区役所職員Fさんの話。2001年3月14日）。さらに死亡者は2000年に252人で、その数は毎年微増している[大阪市市民局,1994-2000]。これは在日一世の死亡者である。また2000年に、373人の帰化者があった。帰化者は、減少傾向にある[大阪市市民局,1994-2000]。

帰化の審査は昔と違い、今は緩くなってます。でも帰化者の数は減ってます。帰化の手続きが面倒やし、生野に住む限り差別はないし、というわけですね。帰化には金がかかるという話もあるけど、手続き自体には金がかからないはずなんですけどね。（前掲Fさんの話。2000年3月14日）

生野区には、これら登録人口のほかに、特別在留許可のない自主入国者や未登録の新来コリアンがいる。その数は未知ながら、少なくないといわれる。その人びとを含め、多くのコリアンが小工場に就労し、居住する。これが生野区である。その特徴は、そのまま猪飼野の特徴となる。猪飼野とは、生野区の鶴橋・桃谷・勝山北・勝山南・中川・中川西・田島の各町から成る一帯を指す。それは、生野区のコリアン集住の中核をなす。大阪には戦前から、朝鮮半島、とくに済州島からの移住者が多かった。1920年代に、生野区・東成区・平野区・東大阪市に化学・金属機械・繊維などの仕事が集積した。それは工業都市大阪の中核をなし、猪飼野はその一画に位置した<sup>25)</sup>。大阪～済州島の定期航路があり、大阪のコリアンには済州島出身者が増加した<sup>26)</sup>。その人びとを頼って、戦後も済州島からの移住が続いた。1990年代に地場産業が停滞し、仕事を見限った日本人が猪飼野を離れた。他方、済州島出身者の流入は続いた。こうして、猪飼野のコリアン化がいっそう進んだ。猪飼野のコリアンの85パーセント以上を、済州島出身者が占めている[金徳煥,1989:63]<sup>27)</sup>。

僕んとも、最初におじいちゃんに来て、おばあちゃんを結婚で呼んで、それからきょうだいたちが来て。親戚が次々に大阪へやって来た。それから子どもが生まれたりして、一族が増加してった。大阪と済州島は離れてるけど、おじいちゃんらにしてみれば、済州島は隣村みたいな感じとちがうかな。この前、先祖の墓参りに行ってきたよ。向こうに親戚も多いしね。（コリアンGさんの話。2001年3月14日）

在日コリアンに、高度経済成長期に済州島から自主入国し、特別在留許可を得たコリアンが

加わった<sup>28)</sup>。そのうえ、1980年代後半に、新来のコリアン出稼ぎ者が加わった。このように、猪飼野には、戦前のコリアンの渡日→戦後のコリアンの残留→自主入国コリアンの渡日→新来コリアンの渡日と、戦前から今日に至る韓国、とくに済州島からのコリアン流入の大きなうねりがある。その意味で、猪飼野にとって、近年の新来コリアンの流入は、特段新しい現象ではない<sup>29)</sup>。金徳煥は、在日コリアン一世と区別して、自主入国のコリアンを「新一世」、新来コリアンを「新々一世」と呼んでいる[金徳煥,1989:64,66]。移住の中間世代である新一世が、在日コリアンと新々一世の世代間トラブルを仲介する立場にあるという[杉原,1993:132][杉原,1998:31]。なお、新々一世には、朝鮮半島出身者も増加した。

猪飼野の在日韓国人にはたしかに済州島出身の人が多いけど、全部やないですね。それに最近の人たちはソウルやその周辺、それに韓国全体から来てます。もっとも現住所がソウルであっても、本籍が済州島という人もおるから、実際はどっから来たといえるか分かんませんがね。(前掲Fさんの話。2001年3月14日)

猪飼野には、在日コリアンが経営するゴムや金属、プラスチック、ビニール、ガラス、キムチなどの小工場が集中する。これらの業種の多くは、出来高払いの家内工業で、不況のため、元請による製品の発注単価の切り下げ、発注量の落ち込みなどで窮状に陥った。経営者は、事業の生き残りのため人員削減や人件費削減を行なった。そのため、日本人や在日コリアンの従業員が賃金カットを忌避して辞めていった。その労働力の空洞部分に、新来コリアンが補填されていった。1990年代に入ると、エスニック・ブームで、猪飼野が注目されるようになった。衣類・靴・食品(キムチ)などのエスニック・グッズが人気を呼び、「コリアン・タウン」や鶴橋市場が賑わった。そして、コリアン・グッズの製造や販売に新来コリアンが携わっていった。若い女性のみならず、中年女性も渡日するようになった。片付け、皿洗い、清掃、キムチ製造。彼女たちは、工場の二階やアパートに住み、狭い仕事場や店頭で働く。屋内で働く彼女たちの数は確認しにくく、不明である(在日コリアンIさんの話。1994年1月6日)。さらに、猪飼野に住みながら新今里一帯のパブやスナックで働く、新々一世のコリアン女性も増加した。猪飼野に、それら新来コリアンの信徒が集う教会が現われた<sup>30)</sup>。そのため、在日コリアンの教会は揺れ動いている。新来コリアンの流入は、猪飼野の社会構造に亀裂を生じつつある。

猪飼野に小さな教会がいくつかできているようです。本当は私たちといっしょに礼拝できるといんですがね。同じ祖国の同胞なんですから。残念ですが、まだ交流はできていません。気にはなってます。(在日コリアンで教会役員Jさんの話。1999年8月13日)

新しい人が増加してますね。とくに女の人が増加してますね。中年の人は在日の親族を訪ねて来る、若い人はブローカーを通して来るという人が多いです。また商売の仕入れなんかで、大阪と韓国をしょっちゅう往復する人もいます。昔に比べて、人間の移動が随分激しくなりました。大阪と韓国の距離がぐんと近くなりました。猪飼野も新しい人びとを迎えてどんどん変わっ

ていきますね。（前掲 F さんの話。2000 年 3 月 14 日）

### ミナミ

中央区は商業の街である。1996 年に、中央区の就労人口の 88.6 パーセントが、第三次産業に属した（全市平均は 76.1 パーセント）[大阪市計画調整局,1999a:441]。2000 年 12 月、中央区に 4104 人の外国人登録があり、その 55.7 パーセントをコリアン、27.9 パーセントを中国人が占めた[生野区役所戸籍登録課,2001]<sup>31)</sup>。2000 年に、中央区の外国人の純入区者数は 197 人で、その数は増加している[大阪市市民局,1994-2000]。それは、新来外国人の増加を示す。また 2000 年に、39 人の帰化者があった。この数も微増している[大阪市市民局,1994-2000]。これらの人口増加は、ほぼ新来のコリアンと中国人の増加分とみていい。これに、在留許可のない自主入国者（コリアンと中国人が多いとみられる）や未登録（超過滞在）の新来外国人が加わる。その数は、未知ながら少ないと思われる。中央区は、大阪きっての歓楽街ミナミを抱える。そこで、多くのコリアン（や中国人）が飲食業（水商売）に就労する。1999 年の国勢調査で、中央区に 1597 人の在日・新来コリアンがいた。それは、外国人全体の 60.4 パーセントを占めた<sup>32)</sup>。またそれは、1995 年調査の 35.1 パーセント増であった[総務庁統計局,1996:805]。他方、大阪（市）のコリアン人口は減少傾向にある。1999 年に 8 万 2032 人で、それは 95 年の 8.2 パーセント減であった[総務庁統計局,2000:804]。また 1999 年に、中央区のコリアンの 69.0 パーセントが女性であった。このように中央区で、市全体の動向に反し、女性を中心にコリアンが増加している。

このような中央区の特徴は、そのままミナミの特徴となる。ミナミは、中央区の難波・心斎橋筋・道頓堀・千日前に跨る歓楽街である。今そこに、コリアン（や中国人）が増加している。2001 年に、ミナミの南東部に 33 の韓国人クラブやバー（スナック、ラウンジ）があり、そこに 200 人以上のコリアン従業員が働いていた（男 17 パーセント、女 83 パーセント）[Chung,2002:43]<sup>33)</sup>。このほか、ミナミに少なくとも 120 を超える韓国人の店があった（レストラン 53、教会 14、ブティック 13、美容院 13、レンタルビデオ店 12、白タク営業 10 など）[Chung,2002:43]<sup>34)</sup>。

朝鮮人や中国人がどんどん入ってきて、日本人がどんどん郊外へ逃げ出して、この辺りが外国人に占領されて、日本人が住めんようになるのも時間の問題ですわ。ほんま、寂しいことですわ。私らもその内商売を畳まんといかんようになるんとちがいますか。（ホテル業を営む日本人女性 K さんの話。1994 年 1 月 6 日）<sup>35)</sup>

アパートやらマンションやら入るだけでおまへん。建物ごと買うてしまうねん、あの人ら。ミナミで稼いで、お金溜めて、そら強いですわ。日本人負けてますわ。そこへもってどんどん新しい人が入ってくる。あの勢いにはよう勝てまへん。（前掲 K さんの話。1998 年 8 月 10 日）

<sup>36)</sup>

チュンは 2001 年、みずからコリアン・クラブで働きながら 33 人のホステスに面接を行なった。ホステスたちは、親族訪問・商用、興行、家族員、永住、短期滞在、学生、就学生などのビザで渡日し、平均 2.7 年日本で働いていた[Chung,2002:42,44]。ミナミに入る新来コリアンには、周旋人を介する人が多いという（前掲 B さんの話。1999 年 8 月 13 日）<sup>37)</sup>。ホステスは、島之内・下寺町・西長堀・日本橋・大国町などの徒歩可能な距離、又はタクシーで 1000 円以内の距離、少し離れて今里や巽のワンルームマンションやアパートに住み、そこから職場へ通勤する[Chung,2002:50]。新来のコリアン女性が在日コリアンの店で働き、在日コリアン所有のマンションやアパートに居住する。ミナミの一角にコリアンの店が集中し、その隣接地域にコリアンのマンション・アパートが集中する。ミナミには、新来の中国人やフィリピン人、タイ人も多い。しかし、新来外国人のドミナントはコリアンである。そこで、新来コリアンの在日コリアンとの繋がりは決定的である。

ある晩、韓国人ホステスとタイ人のホスト・クラブに遊びに行っただけ。そんなとき、帰りに勘定のごとでトラブルになってね。そんなとき、韓国人ホステスが片言の日本語で、ミナミで仕事できんようにしてやるという息巻いてね。そしたら、タイ人ホストがみんな黙って俯いちゃった。韓国人は在日との絆があるから、やはり強いですね。（前掲 B さんの話。1999 年 8 月 13 日）<sup>38)</sup>。

ミナミの新来コリアンに、在日コリアンや日本人と結婚する人がいる。結婚して結婚ビザを取得する。すると、就労が自由になる。最後に、永住ビザを取得する。このようなコースを歩むコリアン女性が増加した<sup>39)</sup>。歓楽街ミナミでも、新来コリアンの定住化が進んでいる。ミナミに、彼女らを信徒とするキリスト教会が現われた。教会は、新来コリアン女性のネットワーキングの重要な場となる。以下は、筆者が訪れたコリアン教会での話である<sup>40)</sup>。教会では、ミサはすべてハングルで行なわれる。ミサが終わり、信徒一同が机を囲んで食事をする。そして、仕事や生活、家庭の話が交される。信徒には日本人と結婚した女性が多い。彼女たちはミサに子どもを同伴する。日曜ミサの後、子どもにお話会が開かれる。教会は、信徒の情報収集の場であり、生活学校であり、避難所である。牧師や信徒の話にも、そのような空間の様子が窺うことができる。

教会を開いた頃（10 年前）は信徒さんが 100 人以上いましたが、数年前は、20 人程に減りました。不況のせいで、4 分の 3 は帰国しました。でも信徒さんの子どもは増え続けました。帰る人は帰って、日本人と結婚した人だけが残ったのです。最近、信徒さんは 50 人に盛り返しました。信徒さんはすべて女性です。日本人や在日の人と結婚した人も増加しています。子どもの年齢は、3 歳から 6 歳位です。日曜学校では信仰心とハングルを教えています。母親が夜働いているので、子どもはいつも留守番です。面倒をみない父親が多いので、子供たちは日頃寂しいのです。だから日曜学校で友だちと遊ぶのが楽しみなのです。父親のところへは、なにか問題があれば訪ねていく程度です。（前掲 N さんの話。2000 年 1 月 4 日）

昔は貧乏のため日本に来ました。今は遊ぶ金を稼ぐために来る人が増えました。その人たちは

一種の観光気分です。韓国人にとって、日本は働きやすい所です。韓国では肉体労働をする男は軽蔑されます。日本ならばだれの目もありません。女性もそうです。水商売で働いてもなにも言われません。だから韓国人はここ（ミナミ）に引き寄せられるんです。（前掲Nさんの話。2001年3月13日）

女性が働いても、実家へ仕送りする人はむしろ少ないです。日本人の夫で働かない人が多いからです。ですから、生活費を稼ぐ必要があるのです。結婚してるからお前は日本におれる、離婚したら韓国に帰らないかと言って、離婚しても実家に帰れない妻の立場につけ入って脅す夫もいます。韓国人はプライドが高いので、そんな夫の仕打ちに我慢ができません。ですから離婚するんです。夫が暴力団という人もいます<sup>41)</sup>。それで、困った女性が私のところに助けを求めて来ます。夫に話をつけに行ったり、入管にビザ手続きの手伝いに行ったりします。私の話に耳を貸さない夫が少なくありません。入管では、そんなことをしていると、資格外活動でお前のビザも失格になるぞって脅されました。でも、私はもっと奉仕をしたいので、今は帰化のことを考えています。（前掲Nさんの話。2001年3月13日）

#### 4節 世界都市化とコリアン

##### コリアン労働者

1980年代、建設業（釜ヶ崎）や製造業（猪飼野）、飲食業（ミナミ）の在日コリアン経営者は、韓国に広がる親族や同郷人のネットワークをつてに、コリアン労働者を直接雇用した。コリアン労働者は、親族訪問ビザで渡日した。1989年、韓国の海外渡航制限が廃止されると、親族訪問による渡日が減り、観光ビザのコリアンが増加した。周旋人を介して渡日するコリアンも増加した。しかし、周旋人には斡旋料を払わなければならない。それを忌避して周旋人と切れ、滞日経験のある親族や友人をつてに渡日するコリアンが増加した。釜ヶ崎にコリアン労働者が増加したのも、その表われである<sup>42)</sup>。アジア系外国人の場合、入国管理局は、資格外就労を疑って観光ビザの更新を許可しない<sup>43)</sup>。その結果、超過滞在の外国人が増加することになる。他方、韓国の不況も深刻で、海外へ出稼ぎに出る人は多い（ただし女性について、韓国政府は「性の輸出」を恐れて神経質といわれる）<sup>44)</sup>。海外旅行の自由化にともない、出稼ぎコリアンの流れは、政情不安・景気後退の中近東から日本へ、さらに現在、日本から中国へ出稼ぎ先を転じた（とくに男性）。その日本の大阪で、在日コリアンが一世～三世へと世代分化し、釜ヶ崎の建設業、猪飼野の製造業、ミナミの飲食業と、異なる仕事世界に分節化した。そして今、それに新一世コリアン、新々一世コリアンと、新たなコリアンが重なりつつある。大阪で、一つのエスニック・グループが地域・仕事・来住世代ごとに分節化し、たがいに重層する下位集団から成る、複雑なコリアン社会が形成されつつある。

釜ヶ崎・猪飼野・ミナミのコリアンの相互関係は、一様ではない。多くのコリアンは仕事と住居を決めたうえで渡日し、渡日後もそこを動かない。しかしミナミのコックを辞めて、釜ヶ崎の日雇労働

者になるという様に、仕事と住居を移動する人（とくに男性）もいる。しかしその実態は不明である。

ミナミにいた頃スナックの店長までなって、3年前、店の帰りに強盗にやられてな。大怪我をしてな。入院して退院したら、なんかもう気力がのうなってしもうて、店に戻る気のないうなって。そんで釜（ケ崎）へ流れて来たんや。ミナミは今は遊びに行くくらいや。そやけど、ミナミのことやたらなんでも知ってるで。（前掲Lさんの話。1999年8月13日）

かつて、猪飼野から釜ケ崎へ労働者の募集に出向く在日コリアンがいた。しかし、釜ケ崎に仕事なくなり、また労働者をプールする人夫出し飯場のない猪飼野から釜ケ崎へ出向く人はいなくなった。

生野から土建業の親方で西成（釜ケ崎）へ出たり、仕事探しに出たりという話は、近頃はあまり聞かんです。今はむしろ大正や住之江の沿岸区の飯場から西成へ出る親方が多いようです。その人たちも在日です。（コリアンOさんの話。2001年3月14日）

これに対して、猪飼野とミナミの関係は密接である。1929年、猪飼野に隣接して今里新地が開拓された。その後、今里一帯は歓楽街として栄えた。今、そこに新来コリアンが増加している。そして今里一帯が変貌しつつある。

新地のみならず大阪各地の韓国料理店やスナックに勤めたり、あるいは各種のサービス業に従事する彼（彼女）らは、手軽で新しいマンションに共同で部屋を借り、夕方頃から活動を始めるのである。彼（彼女）らの増大にあわせるかのように、この地域でもワンルーム風マンションが林立した。そして韓国ビデオ・ショップや、看板がハングルのパーマ屋が相次いで誕生し、さらには二四時間営業をうたった韓国居酒屋もオープンしている[杉原,1998:25]。

猪飼野とミナミのコリアンは、歴史的に繋がっている。

猪飼野の在日がまず新今里へ出て、その後、近鉄線に沿って進出し、終着地のミナミへ出た。その人たちが韓国に紹介網を広げて、女性を呼んだ。女性たちが新今里のワンルームマンションに入って、そこからミナミへ通う。こんな具合ですね。地下鉄の鶴橋線が延長されてからは、巽（猪飼野の隣接地域）にもマンションが増えましたね。（前掲Fさんの話。2001年3月14日）

新来コリアンは、在日コリアンが開拓した仕事と生活の場に導かれて流入する。彼（女）らをそこへ誘う周旋人にも、在日コリアンが多い。自前のついで渡日するコリアンも多い。しかし、彼（女）らの渡日後の仕事や居所も、在日コリアンの存在と関わりをもつ。釜ケ崎・猪飼野・ミナミ

の在日・新来コリアンは、たがいに繋がったり切れたりして、大阪のコリアン社会を作り上げている。

### 世界都市化と外国人

本稿で、大阪の在日・新来コリアンを対象を絞り、入手できた情報を限りに、釜ヶ崎・猪飼野・ミナミのコリアンの就労と居住の断片を記述した。新来外国人は、受入れ国の世界都市の底辺に参入するだけではない。彼（女）らは、都市の歴史と地域の個性に刻まれた社会の溝に沿って参入する。大阪に新来コリアンが流入し、建設業・製造業・飲食業に参入した。その先導役は、いつも在日コリアンであった。在日／新来コリアンの関係は、地域ごとに異なる。雇用関係も多様である。在日コリアンと雇用関係をもつ新来コリアン、もたない新来コリアン。しかし全体に、在日コリアンは新来コリアンの動向を決している。大阪では、新来外国人の全体の動向さえ決している。これが、釜ヶ崎・猪飼野・ミナミに見た、大阪の在日・新来外国人の最大の特徴であり、大阪の世界都市化の一断面である。とはいえ情報はまだ乏しい。大阪のコリアンの実像は、はるかに多面的で、はるかに流動的である。

### [注]

- 1) 経済のグローバル化とは、ポスト冷戦、情報革命、金融経済の膨張をもって特徴づけられる戦後世界資本主義の一段階をいう [ヨハイム,1999:訳 24-25][Fröbel,1980:34-36]。経済のグローバル化は、国境を越えた労働市場を形成し、そのなかで労働力を配置する。
- 2) カステルは、大都市の「新労働市場」の底辺に「新しい貧困」の蓄積をみた [Castells,1999:236]。筆者は、経済のグローバル化とサービス化が創出する下層の労務職種に就労する人びとを<新労務層>と呼び、安価な賃金のため低位な生活に置かれる人びとを<新貧困層>と呼んだ。それらは、現代都市の労働階層と生活階層の変容を捉える仮説的枠組である。それらは、新中間層・新中流階級と対をなす概念としてある [青木,2001; 2003]。
- 3) カステルは、これを「双対的に二元化した巨大都市」(dual city)と呼んだ [Castells,1999:214]。伊豫谷は、都市の新たな下層職種として、次のものを掲げた [伊豫谷,1996:195-106]。①ビル管理、警備、データ入力などの単純サービス職種、②高級レストラン、ブティックなどの都市サービス職種、③家事労働などの家庭内労働、④ファッション産業などの下請の都市製造業、⑤コンビニ、レストランなどの対低賃金労働者のためのサービス職種。
- 4) 労働者の企業内統合を梃とする日本型労働編成（トヨタイズム）がポスト・フォードイズムの日本資本主義を延命させたとする議論も、この脈絡にある [山田,1991:xii,xiv][石塚,1999:24][伊藤,1999:102]。また駒井は、資本や労働力の国際移動における国家の役割を説き [駒井,1989:40]、サッセンは、経済のグローバル化にともなう、経済の脱国

家化と政治の再国家化について説いている [Sassen,1996:訳 132]。

- 5) 世界都市（化）仮説の焦点の一つは、世界の諸都市の階層化の指標を操作化し、諸都市を序列化することにあつた [Friedmann,1986a]。次の論文に、世界都市（化）仮説の研究レビューがある [Hall,1996]。ちなみに、世界都市化の議論は、都市化（urbanization）に関わる問題群（人口の量と異質性、生活様式）を内包する。世界都市化とは、都市化のグローバルな展開をいう。
- 6) 以下「大阪市」を「大阪」、大阪府を「大阪府」と表記する。大阪都市圏は、大阪府の近隣諸県を含む半径 50km、人口 1700 万人に及ぶ経済社会圏をいう [大阪市経済局,2000,p.16]。
- 7) 以下「韓国・朝鮮人」「韓国人」を、「コリアン」と表記する。
- 8) 外国人労働者の状況はどんどん変わる。本稿の対象についても同様である。調査は進行中である。2000 年以降の状況については稿を改める。
- 9) 警察の犯罪統計も、世界都市化の一指標になる。大阪府警は、1997 年に 2098 件の新来外国人の犯罪を摘発し、940 人を検挙・留置所送致とした [大阪府警察本部,1998:62]。外国人犯罪（の摘発）は 1980 年代に増加し、90 年代にやや減り、以後同水準のペースできている。それは、新来外国人の人口動向にほぼ照応する。ただし犯罪統計は、警察力や社会情勢、マスコミなどの諸要因に影響されたものであり、犯罪の実態をそのまま表わすものではない。
- 10) 調査は、外国人雇用状況報告制度に基づき、2000 年 6 月 1 日、管轄内の従業員 50 人以上規模の全事業所、一部選定された 49 人以下事業所の事業主に対して行なわれた [労働省職業安定局,2000:1,22]。ゆえに、それは全数調査ではない。また、外国人労働者に関わる施策は、厚生労働省と大阪府労働部によって行われる。このため、大阪（市）の外国人労働者の就労実態を示す行政資料は乏しい。
- 11) 厚生労働省の機関・大阪外国人雇用サービスセンターは、外国人に常雇いの仕事を斡旋している。センターに求職登録する外国人は、ほとんど日本の大学・大学院の修了者である。センターに出された企業求人は 1999 年に 846 人で、職種の内訳は営業職 110 人、情報関係職 354 人、設計 82 人、貿易事務 96 人、通訳 21 人、語学教師 47 人などであった [同センター,1999]。求人を中心はこの数年、貿易関連事務職から情報関連職に移行した。また、直接雇用でなく間接雇用が増加した。求職登録者が増加した。登録者に占める中国人の割合が増加した（登録者の約 8 割）。このように、エリート外国人にも「サービス職種」化、「期間雇用」化、「中国人」化という、外国人労働者全体の動向を窺うことができる（同センター職員 A さんの話。2001 年 3 月 13 日）。
- 12) 同じく、京都府は 1466.5 人、兵庫県は 1084.9 人であった。コリアンは関西圏に集中している。
- 13) 大阪のコリアン史に関する書は多い。たとえば [金賛汀,1982][金賛汀,1985][杉原・玉井,1986][杉原,1998]など。
- 14) 1940 年の国勢調査で、コリアン（70 万人余）の職業構成は ①「工業一般」66.5

パーセント（「鉄精錬、造船、銃弾製造」34.3 パーセント、「土建業人夫」19.1 パーセント、「鉱業」13.1 パーセント）、②「販売・通信・サービス」21.9 パーセント（「古物商」7.3 パーセント、「運輸業」7.0 パーセント、「商業一般」6.3 パーセント、「料飲サービス」1.3 パーセント）、③「日傭労働者」2.7 パーセント、などであった [呉,1992:28]。戦前のコリアンの3大職業は「土工・職工・坑夫」であった[杉原,1996:96]。

- 15) 以上は、コリアンの在留目的別登録から有職者の職業別比率を、筆者が算出したものである[法務省入国管理局,2000:124-129]。
- 16) 2001年3月14日に生野区役所で入手した資料[大阪府,2001]に拠る。
- 17) 以下、データ引用などの注記は最小限に留める。中国人やフィリピン人、タイ人などの動向の分析は割愛する。
- 18) 確認の術はないが、釜ヶ崎の手配師・人夫出しのほとんどは、在日コリアンといわれる。大正区や住之江区、港区一帯に飯場をもつ在日コリアンが、労働者募集のため釜ヶ崎に出向く。また、企業に労働者の調達を依頼された手配師が釜ヶ崎に出向く。こうした現象は、東京・山谷でも見られる。
- 19) 現場飯場とは、工事現場近くに作られる飯場で、労働者はそこに起居しながら仕事に就労する。これとは別に、人夫出し飯場がある。それは、人夫出しが労働者をいったんそこへ囲い込み、そこから工事現場へ送り出すための飯場をいう。
- 20) 「自由労働者の街『あいりん地区』」（大阪市西成区）の路上で古着などの露店を出している野宿者らから場所代を取っていたとして、大阪府警暴力団対策課と西成署は18日、山口組系暴力団の組員ら5人に対し、暴力団対策法に基づく計120件の中止命令を出したと発表した。集金額は、1年3ヶ月で計約90万円に上る」[毎日新聞大阪版,2000.8.19]。ただし、これはコリアンだけの話ではない。日本人の露天商や組員も同様である。
- 21) 前掲Dさんは日本人であるが、仕事がなく、新来コリアンの世話焼き（親方の手元）に頼んで在日コリアンの親方の飯場へ入った。その飯場は、コリアン15人、朝鮮族中国人5人で、日本人は彼だけであった。コリアンや朝鮮族中国人は、彼に親切に接したという（Dさんの話。1999年7月18日）。
- 22) 新来コリアンは、日本人や在日コリアンの親方・友人の名義を借りて携帯電話を購入する。前掲Bさんによれば、彼らの滞日が長引くこともない、仕事や生活の問題を自前のネットワークのなかで解決するようになった。外国人支援団体に助けを求めるのは、ビザの申請など、日本人の助力が必要な場合だけとなった（前掲Bさんの話。1999年8月13日）。
- 23) 雇用関係・労働現場における在日コリアンと新来コリアンの地位関係については、次を見られたい。[青木,2000:130-133]
- 24) Eさんは、釜ヶ崎でもっとも多いのは済州島出身者で、これに釜山出身者が続くという（Eさんの話。1999年8月13日）。コリアンとの交際が煩わしいというEさんの言葉に、エスニック・ネットワークの緊密さを窺うことができる。その後仕事が少なく、Eさんは2000年8月に韓国へ帰った。そして韓国から筆者に電話を寄こし、「日本に仕事がないことを皆知って

- るから、日本に行く人は少ないよ。今は中国の北京や上海へ行く人が多いよ。2002 年にワールドカップがあるから、日本でも仕事が増加すると思う。そんな時はまたそっちへ行きたいよ」と語った（Eさんの話。2001年2月26日）。
- 25) 金賛汀は、猪飼野の形成史を説き起こした[金賛汀,1985]。彼は、猪飼野の平野運河の工事終了(1923年)後に入った済州島出身の職工が、コリアンの猪飼野集住の始まりという[金賛汀,1985:21]。これに対して金徳煥は、やはり平野運河の改修抜きにコリアンの猪飼野集住は語れないという [金徳煥, 1989:63]。
- 26) 高は、済州島まで行き、日本への移住者の遡及調査を行なった[高,1996]。
- 27) とはいえ、猪飼野のドミナント集団は日本人である。猪飼野の日本人と在日コリアンの民族関係については、次を見られたい [谷,1993] [谷,2000]。猪飼野育ちの金徳煥は、地域活動の取り組みのなかで日本人の拒絶にあい、活動が頓挫しかかった体験を語り、猪飼野におけるマイノリティとしての在日の立場を思い知ったという [金徳煥,1992.5:84]。「在日同胞は地域住民ではないということである。」「[同:84]
- 28) 高は、自主入国して特別在留許可を受けた6人の済州島人男性の生活史を紹介した [高,2000:31]。彼らは1960年代後半から70年代前半に渡日した、現在40～50歳代の世代である。妻も自主入国者というケースが多い。庄谷・中山の報告書にも、サンダル・シューズ業に就労する自主入国者の事例が紹介されている[庄谷・中山,1992]。
- 29) 猪飼野に「クツ」という韓国式の運命鑑定を商う者が現われて久しい（コリアン団体役員Hさんの話。1994年3月14日）。その後も美容「アカスリ」を始め、韓国の風俗習慣の猪飼野への浸透はいちじるしい。
- 30) それらの教会は、既存のキリスト教会ではなく、韓国から派遣された牧師がハングルでミサを行なう新たな教会である。
- 31) 中央区は、大阪で中国人がもっとも多い地域である。
- 32) 中央区役所で入手した資料に拠る。2002年1月8日。集計年に1年のずれはあるものの、この数は2000年のコリアン登録人口224人よりかなり少ない。すなわち、多くの人が中央区で外国人登録をして、区外に居住する。それは、歓楽街中央区の特徴である。
- 33) これらの数字の算定根拠は不明である。残念にも、ミナミで働くコリアン・ホステス（およびホスト）全体数は不明である。しかし、その数はチュンが算定した200人をはるかに超えるものと思われる。
- 34) これは、チュンが電話帳や雑誌広告によって調べた数である。
- 35) こう嘆くKさんの言葉には、外国人に対する反感に増幅された悲壮感が漂う。
- 36) 事態はKさんが「危惧」した通りになった。1990年代後半、ミナミに近接するマンション・ホテル街にコリアン（や中国人）が激増した。筆者が入ったスナックでも、日本人ホステス3人が口を揃えて、「韓国の人たちはしっかりしてる。あの人たち、お客つかむのうまいし、お金もしっかりとるし」と語った。この言葉に、コリアン・ホステスの勢いに対する驚きと妬みが滲み出ている。

- 37) 釜ヶ崎のコリアン労働者 Lさんは、ミナミの元コックであった。8年前、日本で働こうと観光ビザで飛行機に乗り、偶然、隣席の在日コリアン女性に誘われて、彼女が経営するミナミのコリアン・クラブに入った（Lさんの話。1999年8月13日）。
- 38) 歓楽街ミナミには裏世界もある。麻薬や売春や暴力団の世界である。そこに関わる新来コリアンもいる。いずれ裏世界の事態解明を期したい。
- 39) 結婚に関わる裏話である。次は、釜ヶ崎の日本人労働者 Mさんの話である（2001年3月15日）。「暴力団が西成（釜ヶ崎）の男の戸籍を使って、韓国人の女と結婚させる。もちろん金払って。1件20万円なんて話もある。次つぎに結婚と離婚をさせて、男の戸籍がいっぱいになったら本籍を移す。1年に10人の女と結婚した男もいるそうや。」区役所への婚姻届は、代理人でも可能である。前掲 Fさんによれば、斡旋人（すべてが暴力団組員というわけではない）が届けをすることは少なくない（2001年3月14日）。ちなみに暴力団の研究は、都市研究の重要な課題である。「警察庁によると、韓国の警察当局からは不況や暴力団対策法の影響で資金繰りが悪化した日本の暴力団が進出しているとの情報が寄せられている。また近年は、来日した韓国人のスリグループが、催涙スプレーや刃物などを使って警察官などにけがを負わせるといった悪質な事件が目立つほか、韓国ルートの集団密入国も増加しているという」[朝日新聞社,2000.1.9]。表世界の世界都市化に、裏世界のそれが随伴し、両者は繋がっている。いずれその研究を期したい。
- 40) 筆者は、この教会を1999年8月15日、2000年1月4日、2001年3月11・13日、2002年1月6日に訪ねた。そして、コリアン牧師の Nさんと数名のコリアン女性信徒に話を聞いた。
- 41) ここでの「日本人」の夫には、在日コリアンも含まれると思われる。フィリピン女性やタイ人女性と同様、コリアン女性にも日本人の夫に虐待される人がいる。彼女たちの境遇は、男性優位の儒教文化のなかでいっそう厳しいと思われる。
- 42) 高も、横浜・寿町の新来コリアンを事例に、新来コリアンは在日コリアンよりも滞日経験のある親戚や友人に頼る傾向にあるという[高,1991:114] [高,1996:35]。ただし猪飼野の場合は、新来コリアンが在日コリアンを介さないで渡日・就労することは不可能である。
- 43) 2005年の愛知万博（愛・地球博）を機に、韓国人の入国ビザが不要になった。韓国人は3ヶ月を最長に渡日が自由化された。その結果、渡日する韓国人が急増しつつある。
- 43) 1999年、韓国の不況はぐり抜けたものの雇用はなお厳しく、韓国に帰っても仕事がない。土方仕事もやりづらい。（前掲 Eさんの話。1999年12月30日）。Eさんは帰国後、失業が続いた。ところが、2005年に韓国人の渡日ビザが廃止され、渡日が容易になったため、ふたたび釜ヶ崎で働くようになった。Eさんは、対日許可3ヶ月いっぱい働くと入管に不法就労を疑われるので、2ヶ月ほど働いていったん帰国し、また日本に来るといふ。（Eさんの話。2006年3月15日）

## [文献]

- 青木秀男,2000『現代日本の都市下層—寄せ場と野宿者と外国人労働者』明石書店
- 青木秀男,2001「都市貧困層の変容—労働、居住、政治」大阪市立大学経済研究所『アジアの大都市 [4]マニラ』日本評論社 93-115 頁
- 青木秀男,2003「新労務層と新貧困層—マニラを事例として」日本寄せ場学会『寄せ場』16号 れんが書房新社
- 朝日新聞（大阪版）,2000.1.9「暴力団進出 韓国で探れ W 杯を控えて警察庁が派遣へ」
- 生野区役所戸籍登録課,2001『大阪府市町村別（支会別）主要国籍外国人登録者数』
- 石川義孝,1996「人の流れからみたアジアと大阪」大阪市大地理学研究室『アジアと大阪』古今書院
- 石塚良治,1999「日本資本主義の現在」季刊アソシエ編集委員会『季刊アソシエ』1号 御茶の水書房 19-31 頁
- 伊藤誠,1999「グローバル化と日本・アジアの経済危機」情況出版編集部『グローバル化—シオンを読む』情況出版 92-111 頁
- 伊豫谷登士郎,1999「訳者解題」,Sassen, S.,1996, *Losing Ground ? : Sovereignty in an Age of Globalization*, 伊豫谷訳『グローバル化—シオンの時代—国家主権のゆくえ』平凡社 178-203 頁
- 大阪外国人雇用サービスセンター,1999『業務報告 平成 11 年度』
- 大阪府,2001『大阪府市町村別（支会別）主要国籍外国人登録者数』
- 大阪府警察本部,1998『統計からみた大阪の事件・事故 平成 9 年』
- 大阪市計画調整局,1999a『大阪市時系列統計表』
- 大阪市計画調整局,1999b『統計時報 446 号』
- 大阪市計画調整局,2000a『第 87 回大阪市統計書 平成 11 年版』
- 大阪市計画調整局,2000b『大阪市の現況 データでみる大阪のすがた 平成 12 年度版』
- 大阪市計画調整局,2000c『統計時報 452 号』
- 大阪市計画調整局,2001『第 88 回大阪市統計書 平成 12 年版』
- 大阪市経済局,2000『大阪の経済 2000 年版』
- 大阪市市民局,1994-2000『区政概容』（平成 6～12 年版）
- 大阪労働協会,2000『大阪労働白書 平成 12 年度』
- 加藤晴康他,1996「座談会 寄せ場と寄せ場学会の 10 年—変貌する現実をどう捉えるか」日本寄せ場学会『寄せ場』10号 5-32 頁
- 金徳煥,1989「新・猪飼野事情」耽羅研究会『済州島』1号 新幹社 60-67 頁
- 金徳煥,1992「生野民族文化祭 その 1」耽羅研究会『済州島』5号, 新幹社
- 金賛汀,1982『朝鮮人女工のうた—1930 年・岸和田紡績争議』岩波書店
- 金賛汀,1985『異邦人は君ヶ代丸に乗って—朝鮮人街猪飼野の形成史』岩波書店
- 高鮮徽,1991「韓国済州島出身の出稼ぎ労働者の就労と生活」ほるもん文化編集委員会『ほるもん文化』新幹社 112-120 頁

- 高鮮徹,1996「横浜市寿町へ出稼ぎ労働者を送る村—濟州島 K 邑 B 村を事例として」日本  
寄せ場学会『寄せ場』9 号 25-41 頁
- 高鮮徹,2000『『出稼ぎ目的』の『密航』者と在留特別許可—濟州島人を事例に』駒井洋・  
渡戸一郎・山脇啓造『超過滞在外国人と在留特別許可—岐路に立つ出入国管理政策』  
明石書店 26-35 頁
- 駒井洋,1989『国際社会学研究』日本評論社
- 駒井洋,1993『外国人労働者定住への道』明石書店
- 呉圭祥,1992『在日朝鮮人企業活動形成史』雄山閣出版
- 庄谷怜子・中山徹ゼミナール,1992『大阪生野における在日韓国・朝鮮人の労働と生活 第  
1 集 1991 年度調査報告』大阪府立大学社会福祉学部
- 杉原薫・玉井金五,1986『大正／大阪／スラム』新評論
- 杉原達,1993「大阪・今里からの世界史」板垣雄三『地域からの世界史』21 巻 朝日新聞社
- 杉原達,1996「朝鮮人をめぐる対面 = 言説空間の形成とその位相—1930 年代の大阪を中  
心に」駒井洋・伊豫谷登士郎・杉原達『日本社会と移民』明石書店 91-128 頁
- 杉原達,1998『越境する民 近代大阪の朝鮮人史研究』新幹社
- 総務庁統計局,2000『平成 11 年 国勢調査報告 第 2 巻 27 大阪府』
- 総務庁統計局,2001a『日本の統計 2001』（総務庁ウェブサイト）
- 総務庁統計局,2001b『社会・人口統計体系』（総務庁ウェブサイト）
- 谷富夫,1993「国際都市化と『民族関係』」中野秀一郎・今津孝次郎『エスニシティの社会  
学』世界思想社 2-25 頁
- 谷富夫,2000『民族関係における結合と分離の社会的メカニズム』平成 8～10 年度科学研  
究費補助金（基礎研究 A - 1）
- 法務省入国管理局,2000『平成 12 年版 在留外国人統計』
- 毎日新聞（大阪版）,2000.8.19「<あいりん地区> 野宿者の露店から場所代—組員らに  
中止命令」
- 町村敬志,1994『『世界都市』東京の構造転換—都市リストラクチュアリングの社会学』東大  
出版会
- 山田鋭夫,1991『レギュラシオン・アプローチ—21 世紀の経済学』藤原書店
- ヨハイム・ヒルシュ,1999「グローバリゼーションとはなにか」古賀進訳, 情況出版編集部『グロー  
バリゼーションを読む』情況出版 21-32 頁
- 労働省職業安定局,2000『外国人雇用情況報告（平成 12 年 6 月 1 日現在）』
- Castells, Manuel,1999, *Global Economy, Information Society, Cities and  
Regions*, 大澤善信訳,1999『都市・情報・グローバル経済』青木書店
- Chung, Haeng-ja,2002,“Korean Hostesses Clubs in Minami, Osaka:  
Preliminary Findings on Workers, Activities, and Income,”大阪市立大学  
『人権問題研究』2 号 41-58 頁
- Friedmann, John,1986a, 訳「世界都市仮説」Knox,Paul L. and Peter J.Taylor,

- 1995, *World Cities in a World-system*, Cambridge University Press, 大六野耕作他訳 1997年『世界の大都市』鹿島出版会 191-201頁
- Friedmann, John, 1986b, 訳「世界都市研究の到達点—この10年間」Knox, Paul L. and Peter J. Taylor, 1995, *World Cities in a World-system*, Cambridge University Press, 大六野耕作他訳, 1997『世界の大都市』鹿島出版会, 23-47頁
- Fröbel, Folker, 1980, *The New International Division of Labour*, Cambridge University Press.
- Hall, Thomas D., 1996, "The World-System Perspectives: A Small Sample from a Large Universe," *International Sociology*, vol.66, no.4, pp.440-454.
- Hill, Richard Child and Kuniko Fujita, 2003, "The Nested City: Introduction," *Urban Studies: An International Journal for Research in Urban and Regional Studies*, University of Glasgow, vol.40, no.2, pp.207-217.
- Sassen, Saskia, 1988, *The Mobility of Labor and Capital: A Study in International Investment and Labor Flow*, Cambridge University Press, 森田桐郎他訳, 1992『労働と資本の国際移動—世界都市と移民労働者』岩波書店
- Sassen, Saskia, 1996, *Losing Ground?: Sovereignty in an Age of Globalization*, Columbia University Press, 伊豫谷登士翁訳, 1999『グローバリゼーションの時代—国家主権のゆくえ』平凡社